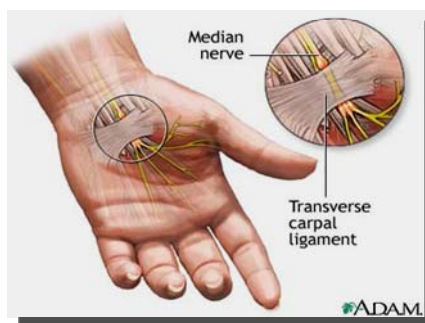
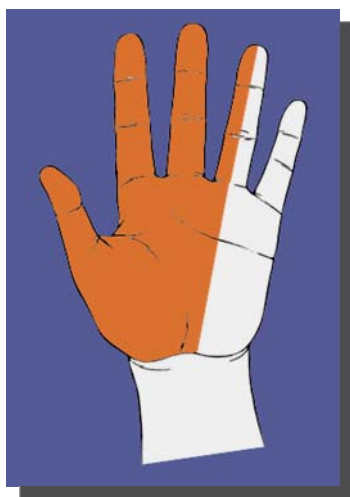


末梢神経麻痺（手根管症候群）

末梢神経もいろんな分布があります。例えば手根管というのは、神経がちょうど手首のところを通ってきて、掌から指先に分布しています。脊髄が傷んできても手のしびれがでできますし、末梢神経が傷んでもしびれがでできます。頰の骨が傷んでくると先ほど言ったように6，7がやられてくると、手のこういう分布がでできます。



手根管がやられると、いつもこういうしびれがでできます。手根管症候群は、薬指の内側半分、親指側は正中神経、小指側は尺骨神経の支配です。ですから、薬指の外側と内側で感覚が違うかどうか、あるいはここのところ（スライドで手の付け根の部分を目指す、下に正中神経が通っている）を押してみても痺れがくるかどうかをみます。しびれの分布で、それが末梢神経の障害なのか、脊髄の障害なのかというのが診断出来ます。そんなようなのを駆使しながら、神経レベルで大体どこの障害かなというのを、まず見当つけるわけです。

脊椎の診断というのは、推理小説というところまでは行かないけれど、色々話を聞いてみて、こういう病気が隠れているのではないかなというのを、ある程度そのパターン、あるいは今どういう分布をしているかだけじゃなくて、どういう経過で悪くなってきたかというのを聞くことによって、かなりの部分、推測がつくということですね。その後で画像を見ることになります。